

## 「中世城館調査」の取り組みと、 「中津市の中近世城館－資料編－」刊行について

### 【内容】

中津市教育委員会では、市民の協力を得ながら中近世城館の総合的な調査を実施しています。その成果の第一弾として、市内の中近世城館に関する史資料をまとめた『中津市の中近世城館－資料編－』を刊行しました(A4版、69頁)。

### 【これまでの経緯】

#### 城館の多い地域 中津市の課題

- ◎遺跡としての認識が不足し、遺構の一部が破壊された事例があった。
  - ◎調査がおいつかず遺跡の適切な評価・整備活用ができない。
  - ◎高齢化・過疎化で遺跡の保存体制が維持できない。
- ⇒全体像を把握する調査を行い、遺跡を適切に評価し、  
計画を立てて取り組む必要がある。

・平成15年段階、大分県の調査で、県内の中世城館数569箇所中、中津市には62箇所確認。

**まだまだある！**

### 【目標】

詳細不明城館を中心に確認調査などを行い、周知遺跡化や重要城館を指定することを目標に、平成25年度より、国庫補助事業「中近世城館確認調査事業」に着手しています。

中世城館調査年度別工程表

		平成25 年度 (2013)	平成26 年度 (2014)	平成27 年度 (2015)	平成28 年度 (2016)	平成29 年度 (2017)	平成30 年度 (2018)	平成31年 度 (令和元) (2019)	令和2年 度 (2020)	令和3年 度 (2021)	
古文書類調査		→									
調査対象箇所の 絞り込み	史料・市町 村史・地誌 類編等	→									
	小字図収 集		→								
	聞き取り調 査			→							
	城館内容 確認			→				→			
	旧下毛郡 地籍図調 査					→					
縄張り図作成		→									→
報告書作成							文献編 →			総論編(分 布・地名 含む) →	

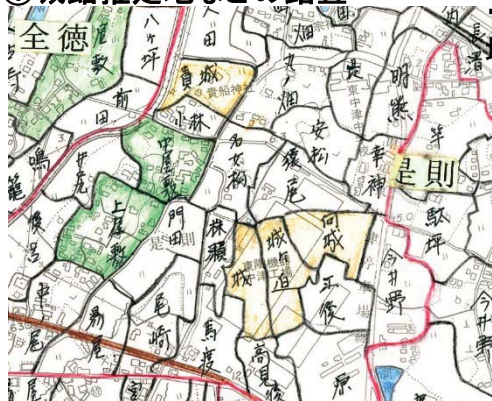
### 【城館調査の工程について】

- ・平成25年度から令和3年度まで実施予定。
- ・報告書は事業内に2回刊行予定。今回は第一弾として文献編(資料編)を刊行しました。
- ・今後、令和3年度まで縄張り図の作成などを行い、令和3年度に総論編を刊行予定です。

・城館調査では、地名調査、聞き取り調査、縄張り図作成、文献調査など膨大な時間と手間がかかるため、市町村で着手する例はほとんどありません。市では、市民の方々から協力を得ながら事業を進めています。

## 【中津市中近世城館調査の進め方】

### ①城館推定地などの踏査



字図の地名を頼りに踏査を実施。  
・市内約140箇所を踏査。**28箇所**で新たに城館跡を確認。(資料1)

### ②聞き取り調査

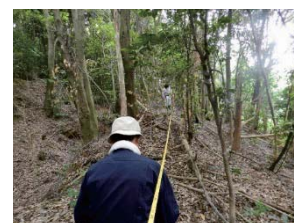
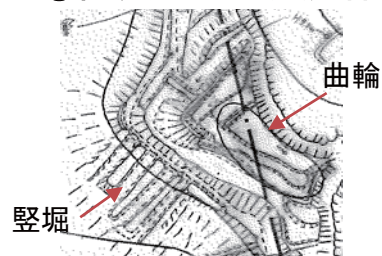
・老人クラブ13団体に城館伝承地などの聞き取りを実施。

### ③文献調査



文献に城館跡の記載があるか調査します。

### ④縄張り図の作成(資料2)



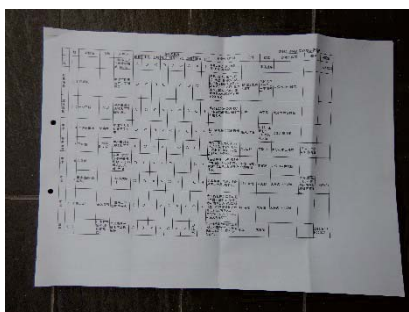
発見した城館跡の簡易測量図を作成。**今後約60箇所を予定。**

### ⑤委員会の開催



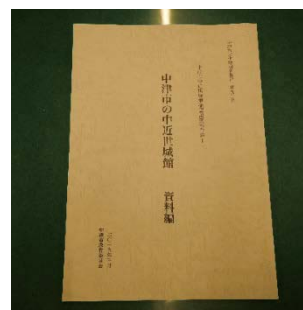
大学教授など有識者で構成される委員会の調査指導を受けています。

### ⑥一覧表の作成



市内の城館を一覧表にまとめたものです。

### ⑦報告書の作成(資料3)



調査した成果を報告書として刊行します。**写真は今回刊行した資料編です。**

## 【資料編の特長】

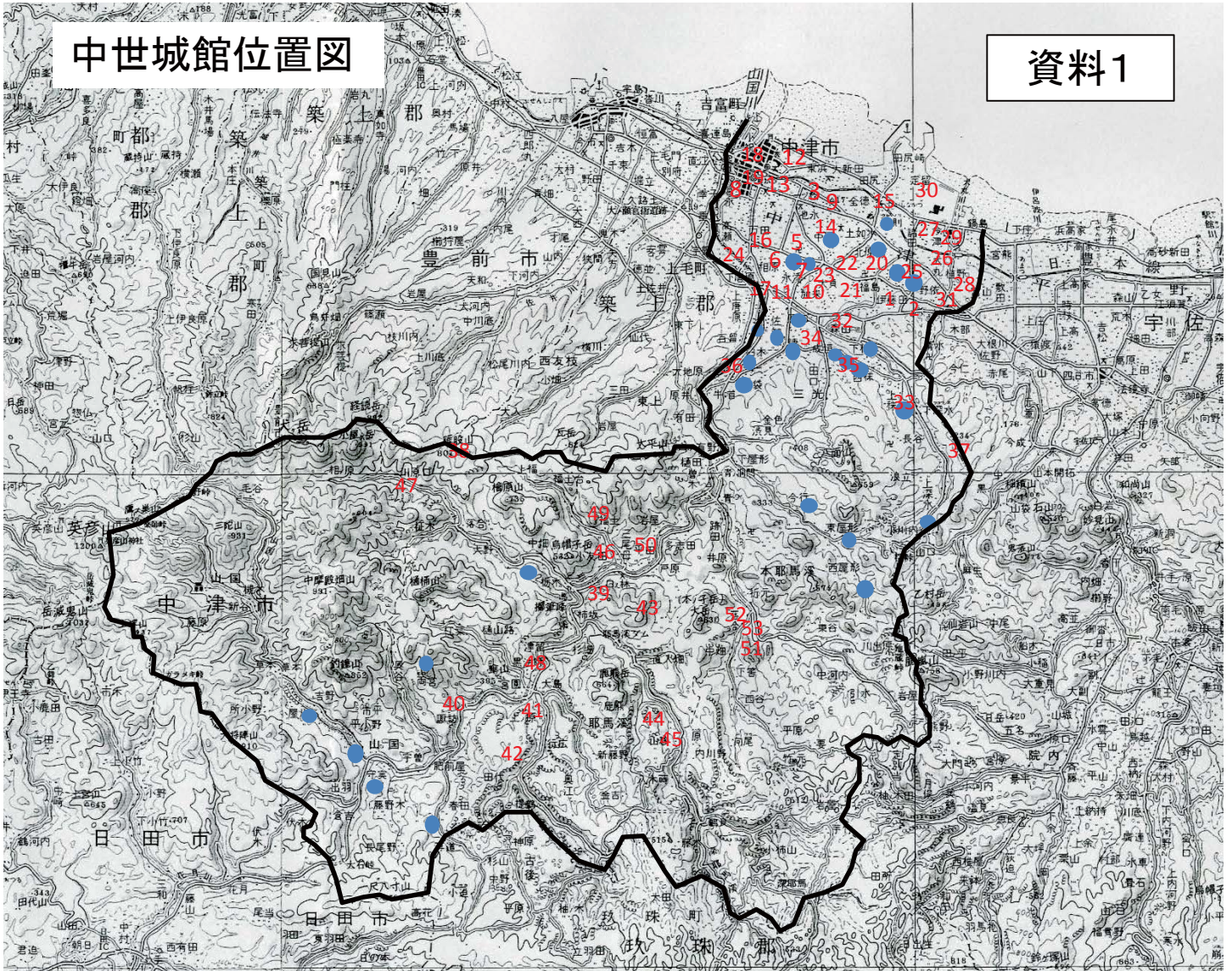
- ・資料が存在する39城館の一次史料98点を掲載。
- ・大分県が過去に刊行した城館資料調査報告書は古文書を時系列で並べたものでしたが、今回の報告書は城館別に分類・掲載しています。
- ・市内の城館を調べたい一般の方にとってとても利用しやすい体裁になっており、中津市内の城館を調べる際の必読書といえます。
- ・旧中津藩士が作成した『八條家文書』などこれまで知られていなかった貴重な史料も紹介しています。
- ・今後、中津市立図書館や県立図書館、大学、市町村教育委員会などへ配布予定。
- ・市町村主体で域内の城館調査を行うことも珍しいですが、資料編刊行はさらに珍しいことです。

### 【問合せ先】

教育委員会 社会教育課 文化財室  
浦井 (TEL : 0979-23-8615)

# 中世城館位置図

# 資料1

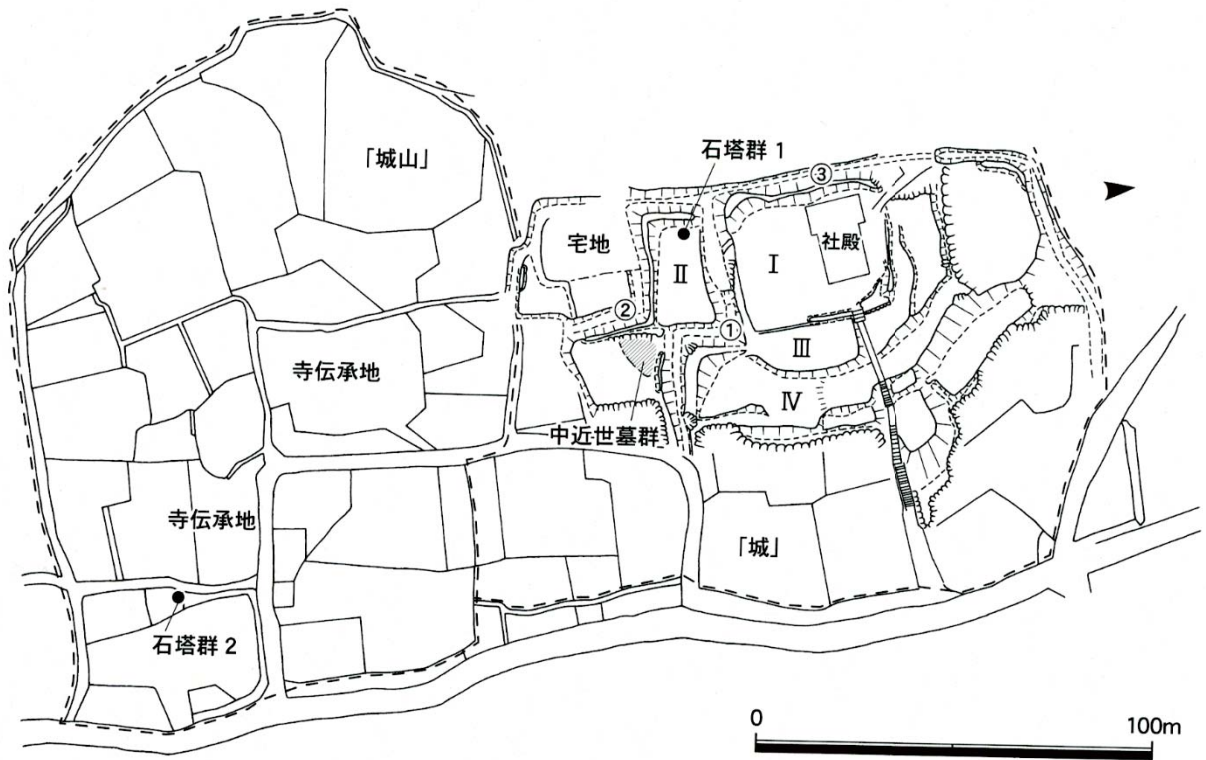


- |          |           |           |
|----------|-----------|-----------|
| 1. 下伊藤田城 | 17. 坂手隈城  | 33. 秣城    |
| 2. 上伊藤田城 | 18. 中臣城   | 34. 田嶋崎城  |
| 3. 一ツ松城  | 19. 中津城   | 35. 岡崎城   |
| 4. 永副城   | 20. 妙相寺城  | 36. 土田城   |
| 5. 末広城   | 21. 仮屋敷遺跡 | 37. ズリヤネ城 |
| 6. 法華寺城  | 22. 田丸城   | 38. 雁股城   |
| 7. 八並城   | 23. 福島城   | 39. 築久江城  |
| 8. 宮永城   | 24. 河原田城  | 40. 一ツ戸城  |
| 9. 鴻の巣城  | 25. 中尾城   | 41. 下城    |
| 10. 大幡城  | 26. 犬丸城   | 42. 鎌城    |
| 11. 黒水遺跡 | 27. 岩丸城   | 43. 高城    |
| 12. 蠣瀬館  | 28. 植野城   | 44. 鷹丸城   |
| 13. 牛神城  | 29. 末広城   | 45. 馬場城   |
| 14. 池永城  | 30. 地頭屋敷  | 46. 小友田城  |
| 15. 安松遺跡 | 31. 野依城   | 47. 長岩城   |
| 16. 福永城  | 32. 北平城   | 48. 松ヶ岳城  |

- |           |
|-----------|
| 49. 馬台城   |
| 50. 平田城   |
| 51. ジョウヤ城 |
| 52. 落合城   |
| 53. 古庄屋遺跡 |

※1～62は大分県報告箇所  
(54～62は場所不明のため不記載)

● = 今回新たに確認した城館  
28箇所



第4図 上秣城跡縄張り図 (S=1/2,000)  
(平成13年度大分県作成縄張り図に追記「」は小字)

資料3-1

中津市文化財調査報告 第九三集

中津市中近世城館確認調査報告書Ⅰ

# 中津市の中近世城館

資料編

二〇一九年三月  
中津市教育委員会

中津市の中近世城館 資料編 目次

第一章 調査に至る経緯 ..... 1

第二章 中津市中近世城館関係史料集成 ..... 2

第三章 史料調査の成果 ..... 50

第四章 地籍図調査 ..... 67

第二章 調査に至る経緯

第二節 調査に至る経緯

大分県北部に所在する中津市には、二〇〇三年度段階で約六二カ所（詳細不明分含む）の城館跡が知られていた。これは、平成七年度から平成一五年度まで九カ年にわたり大分県教育委員会が全県を対象に行った「中世城館等発掘調査事業」（以下「発掘調査」）の成果によるものである。文献資料、現地調査を踏まえた県調査により、初めて市内の城館の所在地・残存状況等が整理・確認された。また個別の城館については、「縄張り図」（現地表面の起伏、凹凸から城館の旧状を復元する簡易測量図）作成も行われ、各城館の紹介、城館関連遺構の編年的位置づけもなされている。

本事業着手以前、中津市教育委員会による中近世城館に対する取り組みは、各種開発に伴う発掘調査や史跡整備に伴う確認調査が中心であった。中津城跡においては平成二二年度から石垣の修理・改修や城内の発掘調査がすすみ、黒田時代の遺構が確認された。城館関係の史跡指定は、県指定三件（長君城跡、中津城おかい山、中津城跡）、市指定四件（大畑城跡、一ツ戸城址、平田城址、中津城おかい山）を数える（平成二九年二月末時点）。

一方、近年、大字伊藤田の上伊藤田城跡では無届の土取り作業により土塁が損壊するなど、遺跡保護について市民への周知理解を深める取り組みが急務となっている。また県調査で「詳細不明」や「現状では遺構は確認できない」とされた城館二七カ所についての追及も課題として残されたままであった。そこで、詳細不明城館の探索・周知遺跡化、重要城館の指定を目的に平成二四年度に市内全域を対象とした城館調査計画書を作成した。平成二五年度からは、「中近世城館確認調査」として文化庁の国庫補助を受け、平成三三年度まで事業は実施予定である。

第二節 調査の経過

調査は下記工程表のとおり進めている。今年度は資料編報告書を刊行する。城館位置図を含む城館の内容報告（総括編）は平成三三年度に刊行予定である。

中世城館調査年度別工程表

	平成25 年度 (2013)	平成26 年度 (2014)	平成27 年度 (2015)	平成28 年度 (2016)	平成29 年度 (2017)	平成30 年度 (2018)	平成31 年度 (2019)	平成32 年度 (2020)	平成33 年度 (2021)
古文書類調査									
中町青史・地誌類調査									
調査対象城館所の 絞り込み									
遺構の有無確認									
小字地籍図調査									
縄張り図作成									
報告書作成									
						資料編			総括編

一 永添城

一 土井種世軍忠状

(成徳文書 『大分県史料』八)

筑前國土井兵衛五郎種世申軍忠事
去年十二月廿三日大將御下著以來、最前馳口口、致宿直
警固候畢、
同廿九日、屬大將野依彈正忠手、馳向友枝、致忠勤畢、
今年正月八日、屬大將飯沼兵庫助入道手、馳向永副、令破
却城塙、追敵御敵畢、
白字佐那赤尾、所々凶徒等打出之間、今月十九日、屬宇都
宮山田三郎手、同郡馳向猿渡致合戦、御敵追敵候畢、
同廿一日、所々凶徒等打出下毛郡、燒拂高瀬以下之間、馳
向酒手隈、御敵追敵畢、以此旨可有御披露候、恐惶謹言、
觀應二年正月 日
進上 御奉行所 『承了(花押)』

一 成恒種定軍忠状

(成徳文書 『大分県史料』八)

豊前國御家人成恒左衛門三郎種定申軍忠事
去年十二月廿三日大將御下著以來、最前馳參御方、致宿直
警固候畢、
同廿九日、屬大將野依彈正忠手、馳向友枝、致忠勤畢、
今年正月八日、屬大將飯沼兵庫助入道手、馳向永副、令破

却城塙、追敵御敵畢
白字佐那赤尾、所々凶徒等打出之間、今月十九日、屬宇都
宮山田三郎手、同郡馳向猿渡致合戦、御敵追敵候畢、
同廿一日、所々凶徒等打出下毛郡、燒拂高瀬以下之間、馳
向酒手隈、御敵追敵畢、以此旨可有御披露候、恐惶謹言、
觀應二年正月 日
進上 御奉行所 『承了(花押)』

一 河依(久恒)範房軍忠状案

(久恒文書 『豊前大友史料』七)

豊前國河依河依小太郎範房申軍忠事、
去年十二月廿三日、大將御下著當國以來、致宿直警固訖、
今年正月八日、屬飯沼兵庫介入道手、馳向長副、燒城郭、
追敵御敵畢、
同二十一日、釋源水凶徒、打出下毛郡、燒拂高瀬之間、馳
向飯手隈、追敵御敵、令破却兩城、是等次第、野依彈正忠
貞輔、田口三郎同所合戦之間、口口是短也、然口馳御報、備後
代證粗言上知付、
觀應二年正月 日
評

一 法華寺城

(參考) 『豊前志』

(豊前志 『大分県誌』四三)

法華寺城址
永添村にあり、小城瀧六兵衛重通、一祝宗通、築きて子孫世々
居りき、今も小城屋敷と云ふあり、

(參考) 『豊前國古城記』

(修業文書)

○法華寺城 同郡永添村
小城氏代々在城、白杵氏也、

(參考) 『名所古跡考草摺』

(修業文書)

永添村ノ内 當國田川郡石山城主高橋三河守長幸ノ麾下小
城瀧六兵衛重通居、

一 犬丸城

一 豊臣秀吉書状

(黒田家文書 『黒田家文書』一)

去十二日注進、昨日廿六日於大坂到來、披見候、野中家來箱
籠候犬丸城實崩、敵百人討果、即首進上候、尤無比類被感是

召候、雖若難候、入精候故、早速令誅伐候儀、申妙候、為御
褒美御秘藏之御馬被下候条、可成其意候也、
十二月廿七日(朱印)
黒田吉兵衛尉
とのへ

一 豊臣秀吉朱印状

(黒田家文書 『黒田家文書』一)

去十四日書状、昨日廿六至大坂到來、披見候、城井袈付城
丈夫申付、中豊前野中家來箱籠候犬丸城、吉兵衛尉取巻、則
時敵崩、敵百人討果、首進上候、別而被祝慰召候、吉兵衛尉
雖若難候、入精候故、早速令成取儀申妙候、其方仕たるより
も満足可存と被思召候、為御褒美吉兵衛尉御秘藏之御馬被
下候、相殘ニヶ所城、吉川、其外輝元人数申談取巻由、尤雖
可為辛勞候、亦可入精候、次肥後面之儀、和仁邊春城實崩候、
悉朝首候、彼一類首到來候、然者過半雖一觸候、御置目等為
可被仰付、御人数貳万余來正月廿日被登過候条、其刻以御一
書可被仰出候間、存其旨、諸事可申付候也、
十二月廿七日(朱印)
黒田勘解由とのへ